

タネは誰のもの 上映会 及び

元農林水産大臣 山田正彦先生 講演会



講師：山田正彦 先生

元農林水産大臣、弁護士

1942年4月8日生まれ（長崎県五島市）

1993年の初当選以降、5期にわたって衆議院議員を務め、農林水産委員会筆頭理事、農林水産副大臣、農林水産大臣などを歴任。

現在は弁護士の業務に加えて、TTPや種子法廃止ほか食の安全に関する様々な問題の調査や講演、勉強会などを行い、学校給食を有機無農薬にする活動も支援している。

「輸入食品に日本は潰される」「売り渡される食の安全」ほか著書多数。

種子法廃止、種苗法改定、農薬や化学肥料、遺伝子組み換え作物やゲノム編集食品など…言葉は聞いたことがあるし問題らしいから気にはなるけど、詳しいことはよくわからない。でも自分や家族の健康を守るためにも、最低限は知っておいた方が良いのでは？そんな方にお薦めする、65分の映画とセットになった講演会。ぜひご参加ください。

日時

2022年2月27日(日)

13時10分開場 13時30分開会 13時30分～14時45分映画上映会
15時～16時30分講演会 16:30終了予定

会場

高知市立自由民権記念館ホール
高知県高知市棧橋通4丁目14-3

ご予約

メールまたはお電話で大石まで
sksmat@gmail.com 090-1000-8608

定員66名
参加費無料

2018年4月、種子法廃止
 そして2020年12月、改正種苗法成立
 急速なグローバル化の中であらためて問われるタネの権利とは

“グローバル種子企業が「タネを制するものは世界を制する」ということで独占し、公共のタネでなくなってしまう懸念がある”

鈴木宣弘教授
 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授)



生産者と育種権者

それぞれの思い——

“種苗法が改定されれば、
 私たち育種家は助かります”

林慎悟さん
 (林ぶどう研究所代表)



2020年6月に国会成立が見送られ、継続審議となった種苗法改定の動きに対して賛否が渦巻く中、自家採種・自家増殖している農家と種苗育成農家の双方の声を伝えるため、北海道から沖縄まで様々な農業の現場を取材。政府が拙速に改定を成立させようとしている中、種苗法改定(案)が日本の農業を深刻な危機に陥れる可能性を、専門家の分析も含め農業の現場から探った——



2005年、山形のさくらんぼ「紅秀峰」の豪州流出を裁判で解決した水上進弁護士
 伊藤英信さん(アグリシステム株式会社代表取締役会長)

監督・撮影・編集：原村 政樹(はらむら・まさき)

1957年、千葉県生まれ。大学卒業後、フリーの助監督を経て1988年に桜映画社に入社。同年、アジアの熱帯雨林破壊問題をテーマにした短編映画「開発と環境」で監督デビュー。以後、記録映画やテレビドキュメンタリーを多数手掛ける。主な作品に『海女のリャンさん』(2004年)、『いのち耕す人々』(2006年)、『天に栄える村』(2012年)など。2015年、『無音の叫び声』制作を機に、フリーの監督として独立、『武蔵野』(2017)、『お百姓さんになりたい』(2019)を制作。

監督・撮影・編集：原村政樹 プロデューサー：山田正彦
 語り：江原啓之 音楽：鈴木光男 映像技術：宮崎 諒 整音：丸山 晃
 収録：(株)モイ 企画：一般社団法人心土不二 取材協力：印輪智哉
 協力：日本の種子(たね)を守る会/映画「武蔵野」製作委員会
 予告編制作：大友頌平(SEA) 宣伝イラスト：佐藤ゆうこ&レン
 配給：きろくびと 2020年/日本/カラー/65分



八木岡努さん(JA茨城県中央会会長)

山本伸司さん(種子島サトウキビ農家)

古谷慶一さん(有機農家、栃木県大田原市)

タネは誰のもの

kiroku-bito.com/tanedare



2022年2月27日タネは誰のもの上映会及び山田正彦先生講演会協賛

高知新老人の会・有限会社築山建設・大旺新洋株式会社

株式会社高南メディカル・みもと歯科医院・合同会社プレビジョン

株式会社クローバー・井上石灰工業株式会社・都築工業株式会社・有限会社創友